

〔下學集〕下草木瓜ウリ或作瓜青門セイモン東門トウモン瓜ウリ有五色コシヨク甚美コシヨク謂之青門瓜東門瓜セイモン也東

〔新撰類聚往來上〕茶子菓子類集山海之珍産度存候尋出分有之略○中

瓜ウリ○中 白胡瓜ウリ 諸瓜ウリ 熟瓜ウリ 唐瓜ウリ 細地ウリ 梵天ウリ 瓠ウリ 榎子瓜ウリ

〔易林本節用集〕草字瓜ウリ五色コシヨク青門セイモン 瓣ウリ 〔同食服〕五色コシヨク瓜ウリ 〔同草木〕青門セイモン瓜ウリ

〔干祿字書〕平聲瓜瓜ウリ上俗下正

〔日本靈異記上〕无慈心而馬負重馱以現得惡報緣第廿一

昔河内國有蓑販之人名曰石別也過馬之力而負重荷馬不往時曠恚捶馱負荷勞之兩目出淚賣蓑竟者即殺其馬如是殺之爲多逼

〔日本靈異記考證上〕蓑ウリ即瓜字瓜俗字見干祿字書按瓜與瓜字體相近易混故加艸以分之也說

亦瓜作低

〔枕草子八〕うつくしきもの

ふりにかきたるちごのかほ

〔枕草子春曙抄八〕ふりにかきたる 姫瓜の事なるべし

〔夫木和歌抄九〕六帖

百敷やくらのつかさのふりうりに我おとらじとつどふうなひこ

〔東雅〕十四瓜ウリ 義不詳ウリとは其熟ぬるをいひしに似たり梅の註を可併考古事記にも小碓命筑

紫の熊曾が衣をとりて劔をもて其胸より刺通し熟瓜の如く振折而殺し給へりといふこと見えたり或説に俗に瓜をフリとしる事よからずといふなり古語にウリといひフといふは相通

り熟瓜をば倭名鈔にはホソヂと云ひて俗用熟瓜二字或説に極て熟し蒂落つるの義なりと註

しまた青瓜アヲウリ斑瓜マダラウリ黄瓠キウリと註せり其キウリといふものは胡瓜の事を

衣笠内大臣家藤原